

とっては帰還するか自費で避難を継続するか、大変困難な決断を迫られることとなります。

＜深刻な南相馬市原町区の汚染実態＞

ーリネン吸着プロジェクトも協力して調査ー＞

南相馬市の西側にあたる原町区は、避難指定区域となっている飯館村や南相馬市小高区と接しており、汚染状況は大変深刻です。この実態は「南相馬・避難指定地域の会」世話人の小澤洋一氏が中心となった地道な調査活動により明らかにされてきました。

小澤氏が問題にしているのは原町区の各所で細かい微粒子がコンクリート、アスファルト等に染み込み局所的に極めて高線量になっていること、藍藻類などが放射線を吸収し極めて高濃度になる「黒い物質」が市内各所で見られること、山林からの吹き下ろしの風で高濃度放射能を含むチリが住宅地まで飛んでくること、除染土運搬のトラックなどの往来で道路わきを中心に粉塵による再汚染が広がっていることなどです。

こうした調査のためにリネン吸着法による大気中粉塵調査の依頼がちくりん舎にあり、リネン吸着プロジェクトとして南相馬市の調査に全面的に協力することにしました。このような調査活動を元にしたつながりが、汚染実態調査だけではなく東京での対政府交渉や南相馬支援の署名活動などより広い支援活動のつながりのベースとなりました。

これら調査結果は内閣府・経産省との政府交渉（後述）でも説明資料として使われました。

＜線量はまだ高いー指定世帯住民全員が解除反対＞

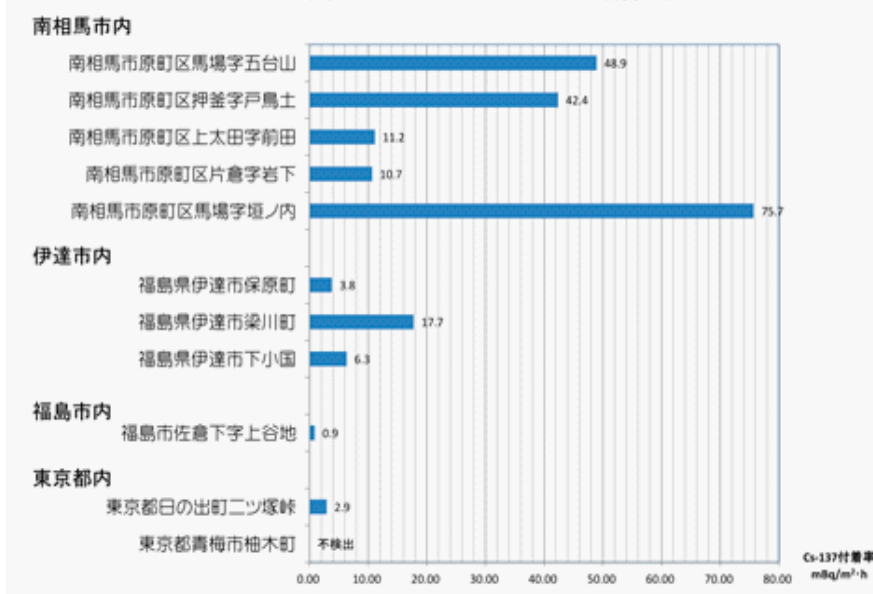
南相馬市では指定された全世帯が「線量はまだ高く安心して暮らせる状況ではない」として避難指定解除に反対していました。10月10日には「南相馬・避難勧奨地域の会」の代表が上京し国会内で内閣府、経済産業省との対政府交渉と集会を行いました。同会世話人の小澤洋一氏が、地元で精力的に調査した空間線量データ等をもとに、解除できる状態ではないことを訴えました。FoE ジャパンやフクロウの会、避難・支援ネットかながわなど首都圏の団体も支援のためのオンライン署名を行いました。こうした活動もあって政府は10月末解除をいったんは見送りました。

その後政府は、経産省高木副大臣（原子力災害現地对策本部長）の指示で指定世帯を回り、除染ではなく「掃除」を行ないました。「掃除」なので正式な線量測定、記録などは行わず、「掃除」後の汚染ゴミ（掃除とは言え汚染地域ですからゴミは高線量のものです）を一般ゴミの袋に入れて各世帯にそのまま放置するという、極めてずさんで住民を馬鹿にしたものでした。

「南相馬・避難指定地域の会」は10月10日以降、避難指定解除問題について5回にわたり公開質問状と要請文を送りましたが、政府はこれにきちんとした文書での回答は行っていません。

測定結果

リネン吸着法による大気中ダストのCs-137濃度比較



＜解散総選挙後の突然の住民説明会と解除の一方的通告＞

12月に突然の衆院解散と選挙が行われました。こうした状況のなかで政府は虎視眈々と避難指定解除の計画を練っていたようです。政府は選挙2日後、年末の慌ただしいところを狙うかのように、12月21日に住民説明会を開くとの通告をして来ました。住民説明会への参加は避難指定世帯の代表者のみが入れるとしており、しかも開催通知には「指定解除」の文言は一切ありませんでした。

しかし指定解除の通告がなされるであろうことは明白でした。果たして住民説明会では「線量が十分下がった」として12月28日の指定解除の説明が行われ、住民からは一斉に反対の意見が出され、説明会は紛糾しました。高木経済産業副大臣は、「川内や伊達との公平性を保つ」「積算線量20ミリシーベルトを下回っており、健康への影響は考えられない」として結局一方的に解除を通告して説明会を終了させてしまいました。

「南相馬・避難指定地域の会」や東京の支援団体は急ぎよ12月26日にも内閣府・経産省との交渉を行い、解除指定延期の訴えを行いました。政府側担当者は住民の訴えを聞き流すだけで誠実な姿勢を見せること

はなく、28日には予定通り指定解除がされてしまいました。しかし「地域の会」の人々はあきらめていません。政府のこの強引なやり方に対して裁判など法的措置に訴えることを検討しています。

除染から帰還への方針転換のもと、避難指定解除や賠償打ち切り、国道6号線開通、焼却炉建設など放射能汚染など何もなかったことにするような動きが強まっています。リネン吸着プロジェクトでは、福島県内で進められている汚染ゴミの焼却炉建設や幹線道路からの粉塵汚染などを問題にする団体、個人との連携が始まっています。新たな測定手段を確立しながら各地の運動と連携してゆきたいと考えています。

ちくりん舎の測定結果（抜粋）

土壌

検体名称	採集日時	採集場所	Cs-134(Bq/Kg)			Cs-137(Bq/Kg)		
			測定値	誤差範囲	検出限界	測定値	誤差範囲	検出限界
土	2014/10/17	東京都八王子市	7.8	2.2	—	27	7.1	—
土(ため池底)	2014/8/23	福島県飯館村	2700	570	—	9600	1900	—
土(ため池底)	2014/9/4	福島県南相馬市	2300	440	—	7600	1400	—
土(ため池底)	2014/9/15	栃木県芳賀郡芳賀町	不検出	—	7	不検出	—	9.3
土(河川沿い)	2014/11/7	東京都武蔵村山市	420	84	—	1100	220	—

食品

検体名称	採集日時	採集場所	Cs-134(Bq/Kg)			Cs-137(Bq/Kg)		
			測定値	誤差範囲	検出限界	測定値	誤差範囲	検出限界
米(玄米)	2014/9/17	福島県伊達市	不検出*	—	0.51	1.7	0.68	—
米(白米)	2014/9/17	福島県伊達市	不検出	—	0.6	不検出*	—	0.66
米(白米)	2014/9/24	栃木県大田原市	不検出	—	0.38	0.5	0.25	—
ミョウガ	2014/9/15	東京都あきる野市	不検出	—	1.1	不検出	—	1.3
キウイ	2014/10/9	東京都あきる野市	不検出	—	1.5	不検出	—	1.6
ムキタケ	2014/10/29	山形県長井市	1.7	0.63	—	8.6	2.7	—
ナメコ	2014/10/29	山形県長井市	1.9	0.73	—	9.6	2.8	—
リンゴ	2014/11/8	山形県白鷹町	不検出	—	0.8	不検出	—	0.94

*検出限界以下のため定量化できないがピーク有と判定

その他

検体名称	採集日時	採集場所	Cs-134(Bq/Kg)			Cs-137(Bq/Kg)		
			測定値	誤差範囲	検出限界	測定値	誤差範囲	検出限界
堆肥	2014/9/22	埼玉県飯能市	10	3	—	31	9	—
湖水(10倍濃縮)	2014/9/15	茨城県霞ヶ浦	0.099	0.047	—	0.34	0.11	—
胎盤	2014/9/30	東京都小金井市	不検出	—	0.4	不検出	—	0.45
尿 58歳 男	2014/9/19	福島県白川郡	不検出	—	0.15	0.29	0.11	—
尿 6歳 女	2014/10/18	福島県伊達市	不検出*	—	0.12	0.19	0.087	—
尿 3歳 女	2014/10/18	福島県伊達市	不検出*	—	0.11	0.22	0.095	—
尿 4歳 男	2014/11/1	福島県伊達市	不検出*	—	0.14	0.25	0.11	—
尿 14歳 女	2014/11/15	福島県伊達市	不検出	—	0.4	不検出*	—	0.43
尿 13歳 男	2014/11/15	福島県伊達市	不検出*	—	0.15	0.2	0.099	—
尿 5歳 女	2014/11/15	福島県伊達市	不検出*	—	0.13	0.23	0.098	—

*検出限界以下のため定量化できないがピーク有と判定

★測定結果はHPでも公開しています。新しく検索機能が付き、検体の種類、採集地等項目別にご覧いただけます。

多摩川流域の放射能汚染を、多数の視点から共同調査するプロジェクトを始めました

多摩川流域放射線調査プロジェクト 柳戸 清

多摩川流域放射線測定プロジェクトは2012年に立ち上げたばかりの新しい会ですが、放射線取扱主任者を含む構成メンバーの多くは既に多摩川上流から河口に至る区域において、環境問題やそれに関連する調査や放射線測定に関与している方々です。会の結成により、メンバー間のより細かな情報交換が行われ、多数の視点からの共同の調査と分析が可能となり、多摩川全体の放射能汚染を俯瞰できるメリットを享受しております。

測定対象は空間線量、土壌、魚類と多種に及び、ちくりん舎のゲルマ測定装置で核種毎の放射線を高精度に検出していただけるバックアップに大変満足しております。

2011年3月、フクイチからのブルームが多摩川の水源一帯にも襲来し、山地は広く放射能に汚染されました。樹木の枝や大地に付いた放射能核種は、徐々に風や雨により移動し、平野部に今なお流れ下っています。

多摩川に沿った街々で0.05 μ Sv/h以下が普通だった放射線の空間線量は、フクイチ事故から3年が過ぎた今でもホットスポットが点在し、0.23 μ Sv/hを超えるポイントも確認しています。

そしてその場所は、幼児が砂遊びをする場所でもあるのに放置されたままです。

多摩川流域には、上流から下流まで放射能の濃縮源となる、各自治体のゴミ焼却場や下水処理場が建ち並ん

でいます。

なかでも多摩川上流日の出町には、1998年から稼働する三多摩400万人分の焼却灰のエコセメント



左から3番目が筆者

化施設(二ツ塚処分場)と、その直ぐ南西の1984年から14年間でゴミ埋め立て完了した谷戸沢処分場があり、二次三次の汚染源となっています。これらの施設からは放射能核種が、ほぼ毎日、排気ガスや物質に付いて空中に放出され、埋め立て焼却残渣からは汚水や地下水が下水を通して、多摩川へ流入しています。

私達はこのプロジェクトを通じて、多摩川が以前のようにここを利用する人たち、特に子供たちが楽しく自然と接することが出来るように、管轄の行政機関が、発生源の特定と防止策、汚染の除去への注意喚起を促していきます。

なお、本プロジェクトで得た測定値は、GPSデータを元に、地図上にプロットされ、見易く理解され易い形で公開しています。みなさんの環境資料としてのご利用を期待しております。

ちくりん舎 会員募集中

ちくりん舎では会員・賛助会員を募集しています。メールまたは電話、FAXでお問合わせ下さい。

●正会員

団体会員 / 年会費 1 口 10,000 円 (何口でも)

個人会員 / 年会費 3,000 円

ちくりん舎の運営に関わり、ちくりん舎を支えていただく団体、個人です。

●賛助会員

年会費 1 口 1,000 円 (何口でも)

ちくりん舎の趣旨に賛同して支えていただく方々です。ちくりん舎のニュースレター、イベント案内等の情報が受け取れます。

★カンパも随時受け付けています。

<市民放射能監視センター口座>

●ゆうちょ銀行

振込口座 : 00150-5-418213

加入者名 : 市民放射能監視センター

シミンハウシャノウカンシセンター

●他行からの振込の場合

店名 ○一九 (ゼロイチキュウ店)

預金種目 : 当座

口座番号 : 0418213

Web サイトにてお待ちしております。

<http://chikurin.org/>

